AJWCEF

NEWSLETTER 2011 年 10 月
Vol. 4

AJWCEF からのご挨拶

皆様には平素より AJWCEF の活動に対し、ご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。

AJWCEF では本年も 3 月、8 月、9 月にオーストラリアにおいて野生動物保護トレーニングコースを開催し、33 名の日本の方がたにご参加いただきました。皆様が大変積極的にディンゴやカンガルーの世話をされたり、入院中のコアラの治療を体験されたりする場面を拝見し、将来この方がたが広く世界で活躍されることを改めて祈念いたしました。また、以前にもお伝えいたしましたが、現在地球上で 130 頭余りしか残っていないノーザン　ヘアリノーズドウオンバットが、政府のプロジェクトにより新しい生息地へ一部移転され、そこで子供が生まれたという誠に喜ばしいニュースが報道されました。

その一方で、最近オーストラリアの野生のコアラが空気銃で 7 回も撃たれる痛ましい事件があり、このコアラは現在入院し治療が続いております。昨年後半にも類似な事件が報道されました。また、1990 年代後半から発生が認められてまいりました人獣共通感染症のヘンドラウイルス感染症（大コウモリ、馬、人の順番で感染すると考えられている急性ウイルス疾患で、馬の致死率は高く、人の致死率も 60%近いとされている）において、そのウイルスの自然宿主とされる野生の大コウモリの生息地と住宅地の問題が現在大きな社会問題となっております。オーストラリアの都市部とその周辺では、日本で想像できないほど人と野生動物が近い環境で生活をしています。AJWCEF の目指す「人と自然のより良い共存」は複雑な要素が関係し、非常に難しい問題です。しかし、これを避けて通ることはできません。AJWCEF はこの目標に向け野生動物保護及びその教育の分野で努力してまいりますので、今後も皆様のご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

AJWCEF
理事長　水野哲男

CONTENTS

AJWCEF からのご挨拶
2011 年 8 月トレーニングコース（上級）レポート
2011 年 9 月トレーニングコース（初級）レポート
イプスウィッチコアラ保護協会
モギルコアラ病院のコーナー
活動報告&イベント情報
AJWCEF スタッフ紹介

オーストラリア連邦政府と豪日交流基金は **AJWCEF** の新しい教育企画、オーストラリア日本間の環境及び野生動物保護に関する中継教育に対して後援しています。

Australian Government
豪日交流基金 Australia-Japan FOUNDATION

2011 年 8 月トレーニングコース（上級）レポート

麻布大学　獣医学部獣医学科２年次　伊藤ひとみ

私は去年の夏も AJWCEF のオーストラリア野生動物保護トレーニングコース(初級)に参加させて頂きました。オーストラリアの野生動物を間近で観察することができて、さらにオーストラリアの動物や文化などにも興味が増し、もっと知りたいと思いました。そして、今回トレーニングコース(上級)に参加させて頂きました。

初級コースでの講義内容は、オーストラリアの固有種についての分類学や生態学、解剖学、繁殖学など基礎的な内容でしたが、上級コースではコアラのクラミジア症、安楽死とアニマルウェルフェアについて、野生動物の予防学などより獣医学的な内容でとても興味深かったです。また初級コースに参加していない人のために基礎的な解剖学の知識なども加えながら説明してくれるので、私にとっては復習にもなって理解しやすかったです。また、現在オーストラリアで話題となっているヘンドラウイルスについての最新情報から獣医師、レンジャー、一般市民の方の意見など貴重なお話を聞くことができました。

私は２回のトレーニングコースの参加を通して、獣医学的な知識はもちろんたくさん学ばせて頂きましたが、その他にも学ぶことはたくさんありました。例えば、オーストラリアという国での野生動物の考え方について知ることによって、日本の場合はどうなのか、両国のメリットやデメリットなども見えてきました。オーストラリアにおける野生動物は国の所有物であり、国民には自然と自分たちが守らなければならないもの、という認識があります。主婦やリタイアした方々が野生動物保護活動や生息域の調査などを行っていることにも表れているように思います。一方で日本における野生動物は国のものでも誰のものでもない存在として考えられています。野生動物は専門家が扱うもので自分には関係がないから関心を持っていないという人も多いように思います。そのような考え方の背景には、両国の環境が深く関わっているようです。オーストラリアでは野生動物が庭に出てきたり、街にいたり、私たちが泊まったホテルの木にもコウモリやポッサムがいました。野生動物がごく身近な存在であるからこそ、同じ場所に一緒に存在するものとして考えられるのだと思います。しかし日本では滅多に野生動物に出会う機会はありません。野生動物の生息する地域と自分たちが住む地域を分けて考えています。このように、日本にいたら気付けないようなことにも気付くことができました。

また、喉が渇いたら乗客を待たせようとも飲み物を買いに行くバスの運転手がいること、日本のように残業はしないこと、休日はレストランも休業することなど、オーストラリアの時間やお金に縛られない自由な生活スタイルを目の当たりにして、自分の人生観も少し変わりました。

去年同様、私たちに丁寧に、そして分かりやすく動物に関する知識などを惜しみなく教えて下さったオーストラリアの方々に感謝しています。そして、私にいろいろな出会いや体験をする機会を与えてくれた AJWCEF のみなさまに心から感謝しています。

獣医師が採血する様子

上級コースのレクチャー

鎮静剤のかかったコアラを運ぶ

2011 年 9 月トレーニングコース（初級）レポート

社会人　佐々木麻乃

トレーニングコースは本当に充実した 2 週間でした。おそらく普段は現地の方でも関係者以外なかなか入ることのできない施設の裏側で実習させていただき、驚きや発見、勉強の毎日でした。

どの施設の方々も、日本から学びにきた我々を快く受け入れ、親切なご指導をしてくださいました。私たちの不慣れな英語にも真剣に耳を傾け、やさしい英語で説明してくださったのがとても印象的でした。英語がスラスラ話せるわけではなかったのですが、お互いの聴こうとする姿勢や理解する気持ちで通じるものがたくさんありました。

赤ちゃんコアラとの出会い
イプスウィッチコアラ保護協会にて

野生動物の生態や飼育法を学べただけでなく、保護活動の背景や行政の取組み等も教えていただき、様々なことを幅広く知れました。日本と同じところ、日本とは異なるところ、良い事もそうでないことも気付けてよかったです。

また、今回スーパーに行っての買出しや自炊生活を行えたことで、地域の雰囲気や生活スタイルを体験することができ大変嬉しかったです。買物や交通の場面では地元の方に助けてもらったこともあり、実習以外でもオーストラリアの方とコミュニケーションをとれる機会があったことは、私にとってとてもいい経験になりました。

今回トレーニングコースを通じて得た、動物・仲間・先生やスタッフ様との出逢い、経験、学び、すべてが一生の宝物です。

山口大学　農学部獣医学科　今井啓之

私は生命科学系の分野に興味があり、現在、大学に通っています。特に、動物の進化に興味があり、今回、オーストラリアのユニークな野生動物について、保護を通して学べるということだったので、第３回初級コースに参加させていただきました。

生物や動物に関する本などをよく読んでいるのである程度、有袋類や単孔目について知っているつもりだったが、実際に現地で動物に触れて学び、知り得なかったことが多くありました。たとえば、コアラの解剖学と生理学は、驚くほどオーストラリアの少雨気候と植物食に特化していました。

コアラの腎臓を触診する様子

また、オーストラリア固有のユニークな動物の解剖学や生理学などの学問的なことを通して、それらの動物が現在直面している課題についても理解が深まりました。住宅開発によるコアラの生息域の減少に関して、実際にその課題に取り組む方々からお話を聞き、リアルな情報を得ることができました。野生動物の保護に携わる方々の情熱や、国民の野生動物に対する考えは、日本の考えとは大きく違い、固有野生動物は国をあげて守っていこうといった雰囲気や、保護活動家が動物の生息数についてオリジナルなデータを発表し、都市開発の計画を変えさせたという話を聞いたときにはとても驚きました。

この他の参加者の体験談も AJWCEF のホームページに掲載されます。是非そちらの方もご覧下さい。

イプスウィッチ コアラ保護協会

IPSWICH KOALA PROTECTION SOCIETY

コアラ救急車とボランティアのレスキュー隊員

AJWCEF が支援する協力団体で野生動物保護を行っているボランティア団体のひとつをご紹介しましょう。クイーンズランド州の州都ブリスベンの南西 40 キロに位置するイプスウィッチ市を中心にコアラを始め、ポッサム、カンガルー、鳥類、爬虫類など実に様々な野生動物の救助活動と、孤児になってしまった野生動物が自立するまでの保育活動を行っているイプスウィッチコアラ保護協会です。AJWCEF のトレーニングコースでは実際に最前線で活躍する野生動物ケアラーを尋ね、彼らの活動を見学することができます。

イプスウィッチコアラ保護協会は、もともとウーガルー（WOOGAROO）コアラ保護協会として知られ、イプスウィッチ近郊カミラ（CAMIRA）に住む一握りの住民たちによって 1994 年 10 月に発足し、1995 年 2 月に非営利として法人化されました。

当初の目的はウーガルー（WOOGAROO）川とその集水地域に沿ってオーストラリア固有の野生動物とその生息地を保護することでした。コアラの生息地は鳥類や爬虫類など多くの野生動物の生息地でもあるため、コアラの知名度を利用して他の野生動物の保護にも効果が出るように自身を「コアラグループ」と呼んでいました。現在、その活動はイプスウィッチ全域とその周辺の郡に及び、遠いところで TOOGOOLAWAH、BOONAH や KALBAR に至るまで常時コアラの救助活動を行っています。そのため、2000 年 5 月にイプスウィッチコアラ保護協会に名を改める事となりました。

救助したコアラを病院に搬送

交通事故に遭って救助されたコアラ

当時の夢はコアラと野生動物のための救急車を所有する事でした。現在は 2 台の野生動物専用の救急車を持ち、年間に 150 頭を超す病気、怪我または親をなくしたコアラと、その他数え切れないほどのオーストラリア固有の野生動物を救助しています。

膀胱炎のコアラの診察　イプスウィッチコアラ保護協会 クリニックにて。

次なる夢は野生動物クリニックを持つ事でした。この夢は 2007 年 10 月に達成されました。このような設備を備えた非営利のボランティア団体はイプスウィッチコアラ保護協会だけです。さらに、週 7 日、24 時間体制で待機する野生動物専門の獣医師と協働し非常時に対応できる環境にあります。

クイーンズランド州　運輸・貿易・雇用及び労使関係担当大臣に提出した意見書

現在に至るまでのイプスウィッチコアラ保護協会の最大の業績は、南部貨物鉄道計画の再編成に影響を与えています。当初の計画では、非常に多くの健康なコアラたちが住む重要なコアラの生息地の真ん中を横切ることになっていました。現在、この南部貨物鉄道はその生息地を避けて通ることになりました。

協会の目的や目標は長年にわたり変わることはないものの、マスコミを通じての発表や、具申の作成、地方自治体、州政府、連邦政府機関やその代表者と密接に協働するなど、その役割は成長してきました。長年に渡る活動の中で、病気や怪我、孤児の野生動物を救助しリハビリするだけでは充分では無いという事も分かってきました。もし、彼らが帰るところがないのであれば、私たちの努力は意味がありません。市民を教育し、全ての野生動物の苦境と生息地を保護する事の重大性に関する一般の人々の認識を高めることで、私たちは野生動物たちの未来を変えられる可能性があると思います。

（文＆資料・写真提供：イプスウィッチコアラ保護協会）

写真：イプスウィッチコアラ保護協会によって救助、養育された野生動物たち

Northern Brown Bandicoot
東南クイーンズランドでよく見られるバンディクート

Blue-tongued Lizard
青い舌を持つトカゲ

Bush-stone Curlew

Echidna ”Hoover”
針が生える前のハリモグラ、フーヴァー君。
推定生後３ヶ月

Eastern Chestnut Mouse

Brush-tailed Phascogale
小型の肉食有袋類

Brush-tailed Possum
庭先などにも出没する
ポッサム

Red-necked Wallaby
まだ毛のないワラビーの赤ちゃん

Koala
生後約 10〜12 週のコアラの赤ちゃん

Black Fruit bat (Flying Fox)
授乳後に哺乳びんの先をくわえているオオコウモリの赤ちゃん

MOGGILL KOALA HOSPITAL のコーナー

No.3 彼らの帰る場所。

モギルコアラ病院に舞い戻って来てしまうコアラは少なくありません。ルナ（LUNAR）もそんなコアラの一頭でした。

一度モギルコアラ病院に来院し森に帰された事のあるコアラには必ずマイクロチップが付けられています。コアラが運ばれてくる度に、獣医師がセンサーでマイクロチップの有無を調べ、見つかった場合はデータベースでそのコアラの履歴を確認します。新規のコアラが重病や重傷で運ばれてくる事も、もちろん悲しいことですが、自分達が看病したコアラたちが、また病院に戻ってきてしまったと知ることは、とても残念で胸の詰まるものです。

薄紫色に濁って見えなくなってしまった瞳

ルナが最初にモギルコアラ病院に来た 7 月の下旬は繁殖期真っ盛りで、ルナのような若いオスのコアラが最も活動的になる時期です。結膜炎で目から膿が出ていた為救助されました。しかし、この時には既に彼の目は盲目でした。救助されるのが遅かったのかもしれません。救助時も何者とも知れない人間という生物に囲まれ、救助が救助であるという事も分からず、ルナはストレスでいっぱいでした。こちらは救助のつもりでも、ルナはとても怖がり、防御的になり、時にはとても攻撃的にさえなりました。目の見えるコアラにとっても、大きなストレスです。目の見えないルナにとって、この日はとても衝撃的な一日だったでしょう。

盲目のコアラでも、その生息地が平和で安全である限りにおいては、手に取るように分かり、何とか生きていけているのだろうと考えられています。しかし、来院時に盲目である上に老齢や病気で筋肉が衰えている場合には、治療後に森に帰っても長く生きられる可能性がとても低いのが現実です。ルナの場合は筋肉の調子が良くまだ若かった事もあり、結膜炎の回復と将来の森での成功を信じて入院することになりました。盲目のコアラの治療はスピードが肝腎です。目の見えないコアラが知らない環境に置かれることは、それだけでストレスになり免疫力が低下する恐れがありますし、生息地が更なる土地開発などによって変化してしまわないうちに一刻も早く帰してあげる必要があるからです。ルナは目の手術を受け、日に日に回復していきました。結局ルナが毎日の点眼に慣れることはありませんでしたが、ケアラーたちの努力とルナの忍耐力によって、入院から僅か 2 週間で退院の日を迎えたのでした。

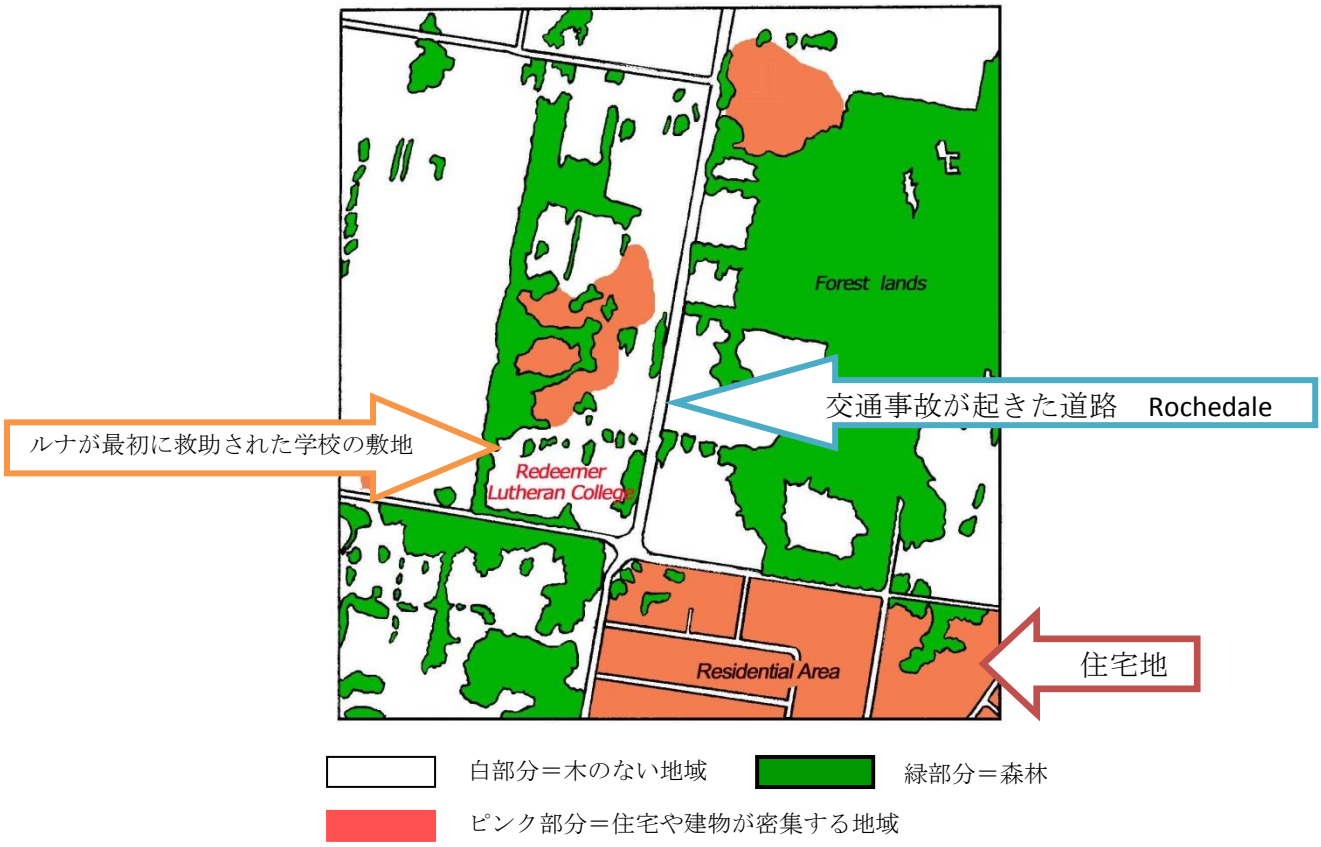
「無事だと良いなぁ…」とルナの去った病室を掃除したばかりのその夜のことでした。モギルコアラ病院の皆の心を引き裂くような出来事が起きてしまったのです。ルナは、自動車に轢かれてしまったのです。レンジャーによると、退院し森に放たれたルナは救助時にいた同じ木に元気よく登っていったと言います。彼は自分の木のあるテリトリーに戻ったことを瞬時に悟ったようでした。そして、その夜、食糧を求めてか、雌を求めてか、ルナは別の木に移動するため道路を渡ったのです。

翌日モギルコアラ病院に着いたときには、もう息を引き取っていました。ルナの森は、住宅や道路に分断されたとても危険な場所だったのです。ルナはずっと、自動車や飼い犬と遭遇するという危険に晒されながら生きていたのです。そのストレスによって結膜炎を起こし、盲目になったのかもしれません。ルナを森に帰したことで、少し安心していたケアラー達は絶望に包まれました。私たちは、ルナを戦場のような場所に送り返してしまったのです。でも、それはルナを別の所へ移したところで、何も解決することはなかったでしょう。目の見えないルナを新しい環境に放り込むことは出来なかったのです。

生息地の断片化、破壊を食い止めなければなりません。クイーンズランド州とニューサウスウェルズ州のコアラは年々恐ろしいスピードで減少しています。手遅れになる前に保護を必要とする生き物の一つです。人間の為だけの都市計画では、人間はいずれ独りぼっちになってしまいます。他の生き物との共存が出来る街づくりを促していく活動が不可欠なのです。

野生動物との共存のために森を購入して生息地を守る活動に参加したり、自分の土地に固有種の木を植林し野生動物のために整備している人たちが、たくさんモギルコアラ病院のボランティアとしてコアラの看病をしています。でも、これだけでは足りないのです。この輪をもっと大きく広げていかなければなりません。ルナのような悲劇を一つでもなくしていけるように、それぞれの地域で、ともに、共存の為の環境づくりを考え行動していきましょう！

（文・写真　平野聡美）



活動報告

2010 年 12 月から 2011 年 10 月まで

野生動物保護トレーニングコース
1．　初級トレーニングコース　（2011 年 3 月）
2．　上級トレーニングコース　（2011 年 8 月）
3．　初級トレーニングコース　（2011 年 9 月）

オーストラリア＆日本野生動物ニュース
・AJWCEF ボランティアメンバーによるブログ 2011 年 6 月より開始いたしました！
「もっと知りたい!!野生動物保護ブログ **http://ajwcef.blog115.fc2.com/** 内の**『野生動物ニュース』のカテゴリーにて、野生動物ニュースの要約と感想を掲載中！**

・**同時に AJWCEF ホームページ内「オーストラリア＆日本 野生動物ニュース http://www.ajwcef.org/wildlifenews.htm」にて、ブログに掲載中の新聞記事や 政府発表などを紹介**しています。

AJWCEF 出展
1．第 32 回日豪合同セミナー　（2011 年 6 月 25 日（土）～　6 月 26 日（日））
参加人数　約 100 人
発表者　水野哲男　AJWCEF 理事長
2010 年度と 2011 年度にかけてオーストラリア、クイーンズランド州を襲った大洪水
2011 年初めにオーストラリア北部を襲ったサイクロン「ヤッシー」が与えた自然環境及
野生動物への影響について日本の皆様に報告いたしました。

野生動物保護スタディーツアー　（定員 41 名）
1．日本獣医生命科学大学　（2011 年 8 月）

事業
1．ユーカリ植林事業
（モギルコアラ病院、プレンベイル小学校、ケンモア・サウス小学校、
マウント・クロスビー小学校、AJWCEF での共同事業）

※寄付に関しましては、2012 年４月号のニュースレターにてご報告させていただきます。

イベント情報

1. 2011 年度オーストラリア野生動物保護セミナー及びトレーニングコース説明会開催のお知らせ

AJWCEF では本年 11 月にオーストラリア野生動物保護セミナー 及び AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコース説明会を日本各地で開催いたします。（詳細は AJWCEF ホームページの**セミナー・説明会情報** http://www.ajwcef.org/semi-setumei.htm でご覧になれます。）

《セミナー内容》※セミナーは開催地によって異なります。
『オーストラリアのユニークな動物たち』AJWCEF 理事長　水野哲男
『コアラの危機』アラン　マッキノン　クイーンズランド州立コアラ病院院長
『コアラエイズ、ヘンドラウイルス感染症最新情報』クイーンズランド州立コアラ病院
『海外野生動物保護活動への参加－オーストラリア』水野哲男　AJWCEF 理事長
『AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコース』水野哲男　AJWCEF 理事長

《開催予定地》
11 月 3 日（木）可児市文化創造センター（岐阜県可児市）
申込・問い合せ先　環境課（0574）62 1111
11 月 4 日（金）麻布大学（神奈川県相模原市）
問い合せ先　伊藤ひとみ　（ v09009@azabu-u.ac.jp　）
11 月 5，6 日（土、日）日本獣医生命科学大学（東京都武蔵野市）
問い合せ先　森春子　（ haruti.ek@gmail.com ）
11 月 7 日（月）岡山理科大学（岡山県岡山市）
問い合せ先　平井みさと　（ rct36_mie29@i.softbank.jp ）
11 月 8 日（火）早稲田大学（東京都新宿区）
11 月 10 日（木）北里大学（青森県十和田市）
問い合せ先　吉岡一機　（ yoshioka@vmas.kitasato-u.ac.jp ）
11 月 12 日（土）帯広畜産大学（北海道帯広市）
問い合せ先　北山知代　（ star617_chi4@yahoo.co.jp ）

2.　日本獣医生命科学大学主催　130 周年記念公開国際シンポジウムも同時開催

11 月 5 日（土）午後　12：45～3：35　日本獣医生命科学大学 C502 教室
主催　日本獣医生命科学大学創立 130 周年記念事業運営・日本獣医生命科学大学国際交流委員会
協力　クイーンズランド大学科学学部、動物科学学部
後援　オーストラリア連邦政府、豪日交流基金、オーストラリア日本野生動物保護教育財団、
クイーンズランド州政府東京事務所

3.　トレーニングコース

① **2012年3月《2011年11月中に募集を開始する予定です。》**
オーストラリア野生動物保護トレーニングコース（初級）
開催地 オーストラリア クイーンズランド州

② **2012年8月予定**
オーストラリア野生動物保護トレーニングコース（上級）
開催地 オーストラリア クイーンズランド州

③ **2012 年 9 月予定**
オーストラリア野生動物保護トレーニングコース（初級）
開催地 オーストラリア クイーンズランド州

Greater Bilby
グレーターバルビー

ＡＪＷＣＥＦスタッフ紹介

伊藤ひとみ

私は幼い頃から絶滅危惧種に興味があり、野生動物の保全に取り組む獣医師を目指しています。しかし大学では野生動物に関する獣医学はほとんど教えてくれません。私にとって固有種の多いオーストラリアはとても魅力的でいつか行きたいと思っていました。そして、念願が叶って 2010 年 9 月初級トレーニングコースに参加させて頂きました。その後、ボランティアとして財団に関わらせて頂いています。初級トレーニングコースの参加やボランティア活動を通してオーストラリアへの興味がさらに増し、2011 年 9 月上級トレーニングコースにも参加させて頂きました。現在は「**もっと知りたい！野生動物保護　ブログ**」で、リーダーとしてブログのメンバーと連絡を取り合い、オーストラリアの野生動物に関する新聞記事の要約や感想を載せています。私たちの活動を通して、多くの方がオーストラリアの野生動物の現状に興味を持って頂けたら幸いです。

清水香乃

こんにちは。私はオーストラリアのクイーンズランド大学で獣医学を勉強していて、こちらで財団のお手伝いをさせて頂いています。 オーストラリアに来ることに決めたのは、野生動物により関われる環境で勉強したかったからです。こっちに来てからもうすぐ７年になりますが、毎日出会える動物たちには未だにいつも感動させられます。私の通っているキャンパスは田舎にあるのですが、おかげでたくさんの動物たちに出会えます。大学にはたくさんの馬、羊、牛などがいますし、カラフルなインコやオウムたちが遊んでいる姿を毎日見ることができます。英語で獣医学を勉強するというのは思ったよりも大変ですが、自分がとても恵まれた環境で勉強させてもらっているのにはとても感謝しています。最近は念願の Wildlife carer になることができて、ポッサムの赤ちゃんを育てています。みなさんも機会があれば是非オーストラリアに来て日本とはまた違った環境を肌で感じてみてください。

北山知代

はじめまして。広報ボランティアの北山知代です。今は帯広で獣医師になるための勉強をしています。去年行われたトレーニングコースへの参加がきっかけで、AJWCEF に関わらせていただくことになりました。野生動物やその保護、人との共生に興味を持っています。高校２年生のときにオーストラリア、タスマニア州に留学した際、オーストラリアの広大な土地とその自然、その中に生きる羊や牛をはじめとする家畜や、独特な形態をもつ有袋類などの野生動物の姿に感動し、それが獣医師を目指すきっかけとなりました。私の大好きなオーストラリアと日本の、「野生動物保護における国際協力」のさらなる実現に向けて、少しでも協力できるよう頑張ります。

会員 (個人・法人) 募集 及び 支援寄附のお願い

皆さまのご支援が小さな命を助けます

詳細は、AJWCEFのサイトwww.ajwcef.orgで『参加・協力』のページにお進みください。

ニューズレター発行元
オーストラリア野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者　水野哲男
編集担当　平野聡美

ホームページwww.ajwcef.org
住所　PO Box 1362 KENMORE,
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA
電話　+61 7 3374-3909　　FAX　　+61 7 3374-3531